



市民が助け合う仕組みづくりに向けたシルバーリハビリ体操指導士の養成講習会

平成29年10月1日時点で、野田市の人口に対して、65歳以上の割合は29・2パーセント、後期高齢者と定義される75歳以上の割合は12・5パーセントで、野田市も超高齢社会になっています。

市では、住み慣れた地域でいつまでも健康に暮らしてもらおうと、従来の介護予防事業を刷新し、「介護予防10年の計」として、29年度から進めています。

その中心事業であるシルバーリハビリ体操に熱心に取り組んでいる茨城県では、要介護認定率が抑えられる結果が得られています。

要介護認定率の抑制は、介護サービスを受ける必要のない、元気な市民が多くなっている証拠です。

シルバーリハビリ体操で元気な市民が多くなると、医療費や高齢者の介護保険料が少なくなり、市の財政運営にメリットがあります。が、それ以上の大きな効果として、まちの賑わいや地域経済の活性化にも大きく貢献します。

また、生活が便利になるに伴い、生活様式の変化に伴う子どもたちの体力の低下や地域社会の絆の



スポーツで地域交流が活性化
(写真は西部地区合同運動会)

希薄さが問題となっている中で、スポーツによる地域の活性化をはじめ、健康の増進、体力の向上が期待されます。

野田市が活性化するように、今後も、スポーツによるまちづくりを市の重要な施策として進めていきます。